

ESET Server Security for Microsoft Windows Server V11 機能紹介資料

第1版

2024年5月28日

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

もくじ

1. はじめに
 - 1-1. 本資料について
 - 1-2. 本プログラムの特徴

2. ESET Server Security for Microsoft Windows Server V11の機能紹介
 - 2-1. ユーザーインターフェースについて
 - 2-2. 詳細設定について

3. プログラム別の機能比較

1. はじめに

1-1. はじめに（本資料について）

本資料はWindowsサーバー用プログラムの機能を紹介した資料です。

プログラム名	種別
ESET Server Security for Microsoft Windows Server V11 (略称表記：ESSW)	Windows サーバー用 ウイルス・スパイウェア対策プログラム

- 本資料で使用している画面イメージは使用するバージョンにより異なる場合があります。また、今後画面イメージや文言が変更される可能性があります。
- ESSWはESET File Security for Microsoft Windows Serverの後継プログラムです。
- ESET Server Security for Linux / Microsoft Windows Serverでは、Linux Server OS向けのプログラムもご使用いただけます。Linux Server OS向けのプログラムの機能紹介は別資料をご用意しています。
- ESET、NOD32、ThreatSense、LiveGrid、ESET Server Securityは、ESET, spol. s r. o.の商標です。
- Windows、Windows Server、Microsoft Edge、Internet Explorerは、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における商標登録または商標です。

1-1. はじめに (本資料について)

- 本資料の画面構成は以下になります。

機能名を記載しております。

2-2-19. ネットワーク攻撃保護

- ネットワークトラフィックの内容を分析し、ネットワーク攻撃から保護します。有害だと見なされるすべてのトラフィックがブロックされます。これによりワーム攻撃、DoS攻撃、ポートスキャン攻撃などを検出することが可能です。

機能についての説明と機能に関する画像を掲載しております。

「総当たり攻撃保護」
SMB・RDPに対する総当たり攻撃から端末を保護します。事前に定義した認証の最大試行回数を超えた場合、一定期間接続をブロックします。

「侵入検出」
コンピュータに被害を与えるために使用されるおそれがある、さまざまなタイプの脅威の検出を有効または無効にできます。

ネットワークプロトコル(SMB・RPC・RDP)の既知の脆弱性(バグ/脆弱性)の悪用に対して保護することが可能です。これにより脆弱性やリモート操作による外部からのネットワーク攻撃に対する防御を行っています。

1-2. はじめに (本プログラムの特徴)

- ESETでは、エンドポイントでの多層防御を実装しております。これにより新種の脅威からの防御を強化しております。各防御機能の紹介は以降のページをご参照ください。

巧妙化する脅威から守る「多層防御」

高度化・巧妙化する脅威に対抗するため、マルウェアの起動時だけではなく、その前後も含めた複数のタイミングで攻撃の手法に合わせた方法で検査を行います。新バージョンで新たに加わった高度な機械学習機能は、従来ESET社のクラウド環境でおこなっていた機械学習による解析をユーザーのローカル環境で実施し、より迅速にマルウェアかどうか判定できるようになりました。

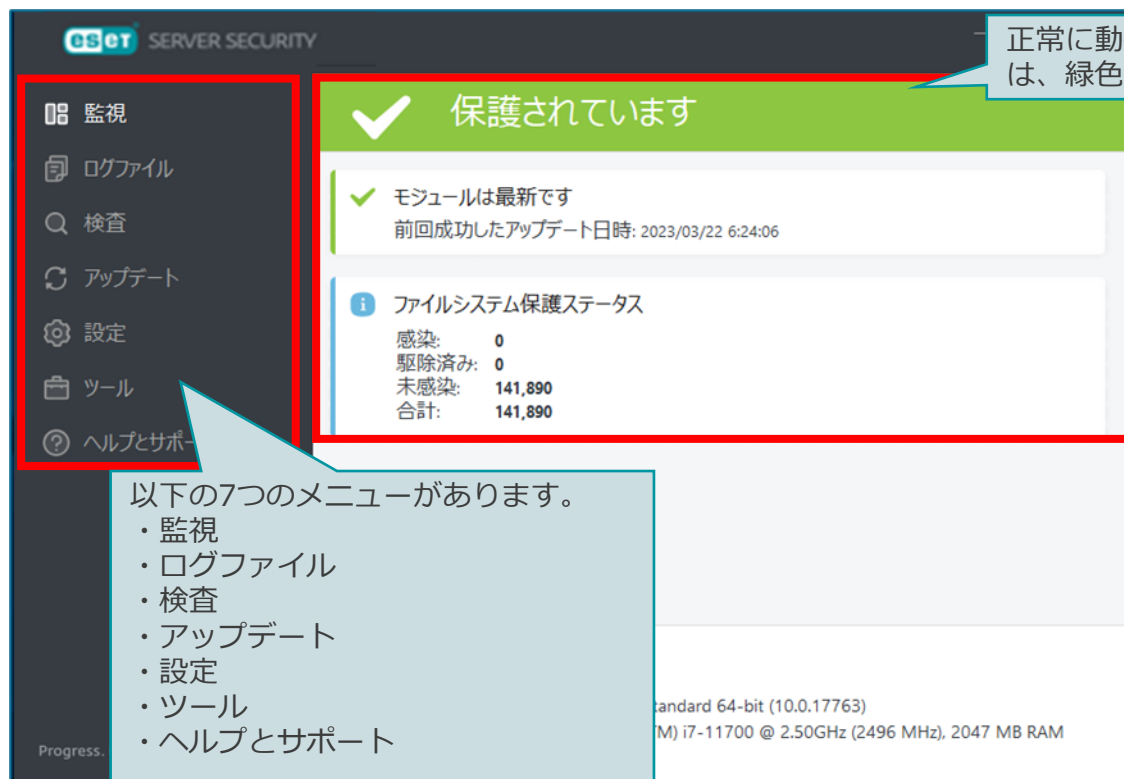


2. ESET Server Security for Microsoft Windows Server V11の機能紹介

2-1. ユーザーインターフェースについて

2-1-1. ユーザーインターフェース

- ユーザーインターフェースの左側の各メニューを選択することで、現在の保護状態の確認やコンピューターの検査、ESET製品の設定変更を行うことが可能です。



正常に動作をしている場合は、緑色で表示されます。

保護されています

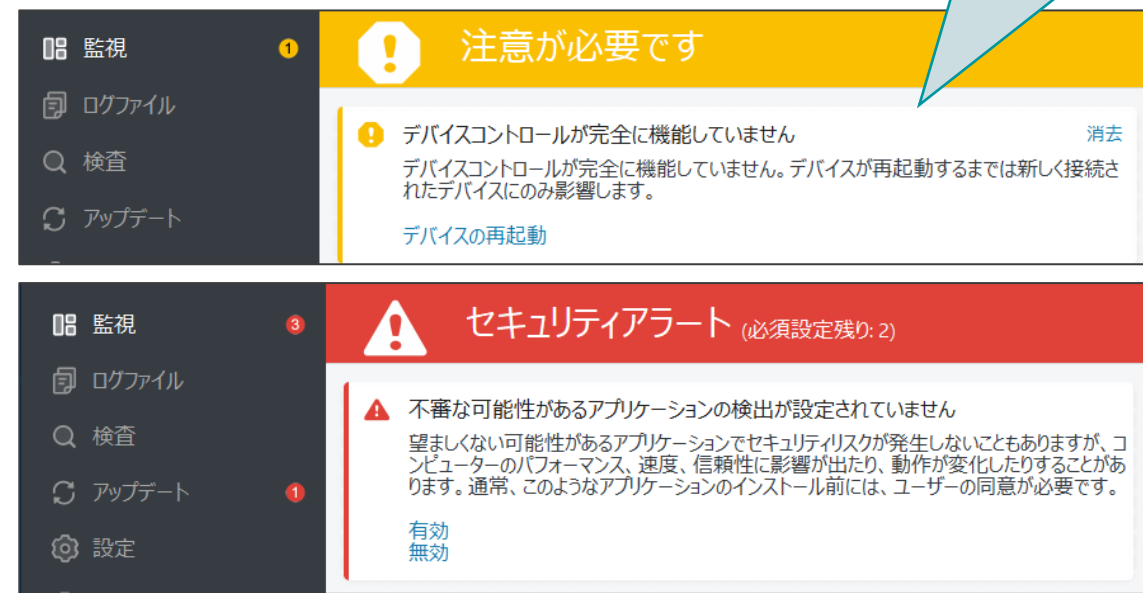
✓ モジュールは最新です
前回成功したアップデート日時: 2023/03/22 6:24:06

📘 ファイルシステム保護ステータス

感染:	0
駆除済み:	0
未感染:	141,890
合計:	141,890

以下の7つのメニューがあります。

- ・ 監視
- ・ ログファイル
- ・ 検査
- ・ アップデート
- ・ 設定
- ・ ツール
- ・ ヘルプとサポート



注意が必要です

⚠️ デバイスコントロールが完全に機能していません
デバイスコントロールが完全に機能していません。デバイスが再起動するまでは新しく接続されたデバイスにのみ影響します。
デバイスの再起動

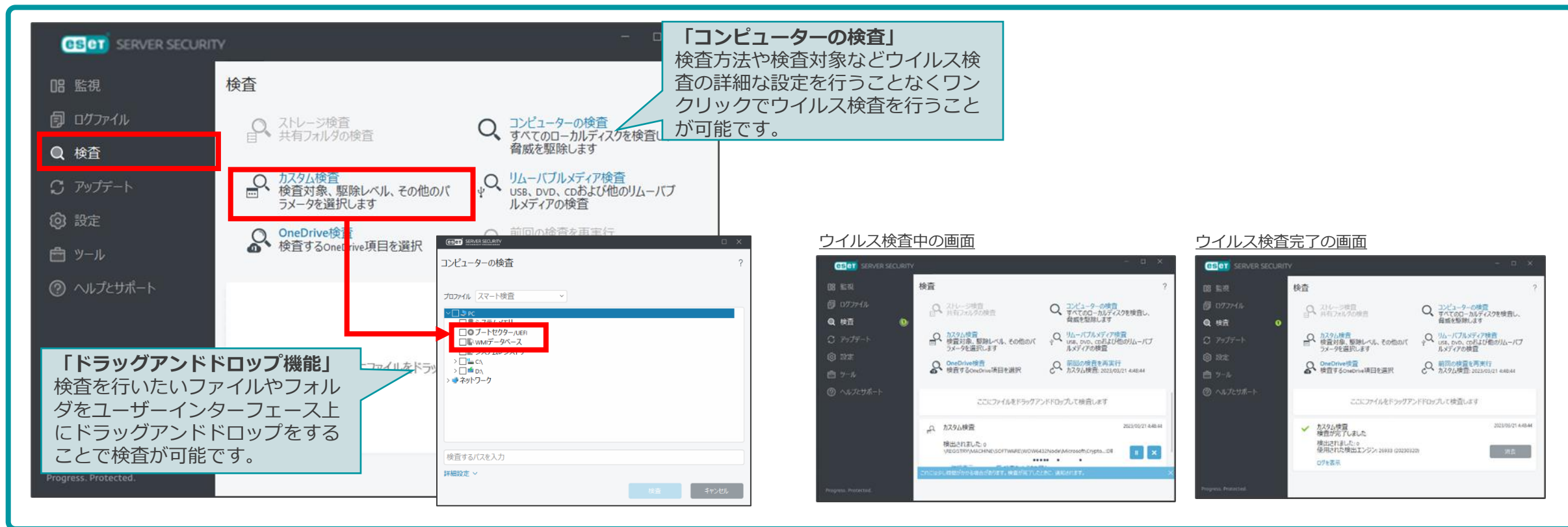
セキュリティアラート (必須設定残り: 2)

⚠️ 不審な可能性があるアプリケーションの検出が設定されていません
望ましくない可能性があるアプリケーションでセキュリティリスクが発生しないこともありますが、コンピューターのパフォーマンス、速度、信頼性に影響が出たり、動作が変化したりすることがあります。通常、このようなアプリケーションのインストール前には、ユーザーの同意が必要です。

有効
無効

2-1-2. 検査

- コンピューターの検査では、コンピューターのウイルス検査を実施し、コンピューター内部に潜んでいるウイルスを検知して、駆除することが可能です。定期的にウイルス検査を実施することで、セキュリティレベルを保つことが可能です。V8からは、WMIデータベースやシステムレジストリを検査することが可能になりました。



「コンピューターの検査」
検査方法や検査対象などウイルス検査の詳細な設定を行うことなくワンクリックでウイルス検査を行うことが可能です。

「ドラッグアンドドロップ機能」
検査を行いたいファイルやフォルダをユーザーインターフェース上にドラッグアンドドロップすることで検査が可能です。

「コンピューターの検査」
すべてのローカルディスクを検査し、脅威を駆除します

カスタム検査
検査対象、駆除レベル、その他のパラメータを選択します

リムーバブルメディア検査
USB、DVD、CDおよび他のリムーバブルメディアの検査

OneDrive検査
検査するOneDrive項目を選択

コンピューターの検査
プロファイル スマート検査
 フォルダ
 WMIデータベース
 ネットワーク
 検査するパスを入力
 詳細設定

ウイルス検査中の画面

ウイルス検査完了の画面

2-1-3. アップデート

- アップデートでは、ウイルス検査で使用する検出エンジンのアップデートを行うことが可能です。新しいウイルスが日々発生しているため、検出エンジンを常に最新にしておくことで、新たな脅威からコンピュータを保護することが可能です。



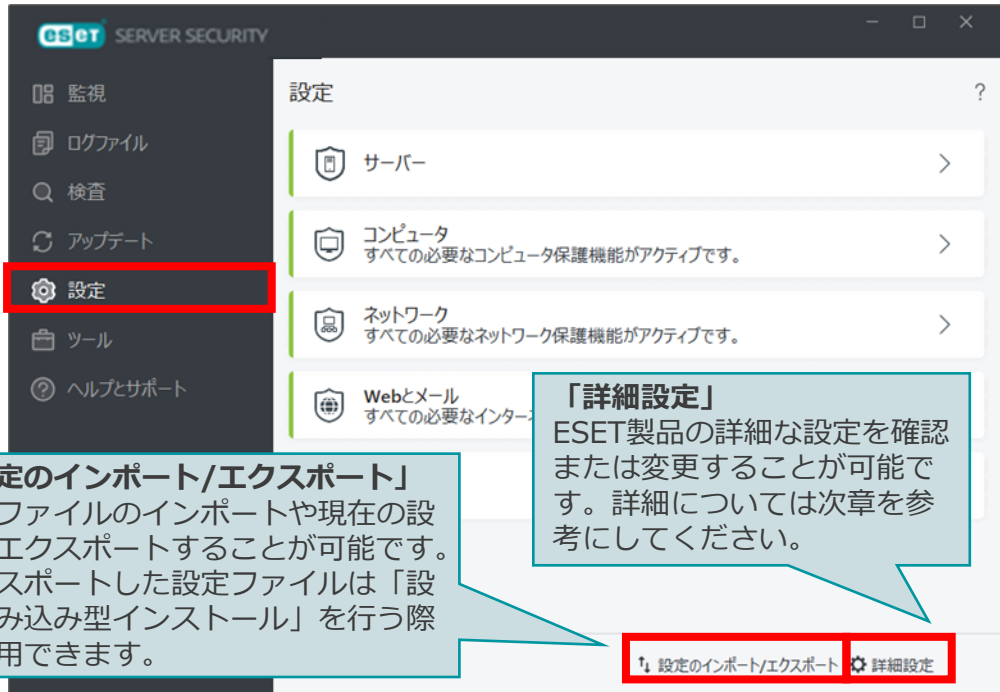
現在のプログラムのバージョンやアップデートを行った時間を確認することが可能です。

「最新版のチェック」をクリックすることで検出エンジンのアップデートを行うことが可能です。

※検出エンジン
ESET特有の表現方法で、ウイルスを検知するための過去に発見された各ウイルスに関する情報をまとめたデータベースのことを意味します。一般的にはパターンファイルやウイルス定義ファイル、シグネチャファイルなどと呼ばれております。

2-1-4. 設定

- ESETのウイルス・スパイウェア対策プログラムの設定の確認と変更をすることが可能です。また業務を行う上で一時的にESETの保護機能を変更させたい場合はユーザーインターフェースから設定を一時的に有効や無効にすることが可能です。



「設定のインポート/エクスポート」
設定ファイルのインポートや現在の設定をエクスポートすることが可能です。エクスポートした設定ファイルは「設定読み込み型インストール」を行う際に使用できます。

「詳細設定」
ESET製品の詳細な設定を確認または変更することが可能です。詳細については次章を参考にしてください。

※設定読み込み型インストール
インストールを行う過程でエクスポートした設定ファイルを読み込みながらインストールを行います。詳しい手順については、下記サポートページをご覧ください。
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/20?&site_domain=business

コンピュータ

- リアルタイムファイルシステム保護
 - 有効: コンピュータ上のマルウェアの即時検出と駆除
- デバイスコントロール
 - 停止
- HIPS
 - 有効: アプリケーションからの望ましくない動作の検出と防止
- アドバンスドメモリスキャナー
 - 有効: メモリで直接隠蔽されたスレッドの検出。
- エクスプロイトブロック
 - 有効: アプリケーションのエクスプロイトに対する保護。
- ランサムウェア保護
 - 有効: ユーザーデータを暗号化し、身代金を要求するマルウェアに対する保護。
- プレゼンテーションモード
 - 一時停止: ゲームモードとプレゼンテーションのパフォーマンス最適化

ウイルス対策およびスパイウェア保護を一時停止

リアルタイムファイルシステム保護を無効にしますか?
短い時間でもリアルタイムファイルシステム保護を無効にすることは危険であり、ウイルスとその他の脅威に対してコンピュータが脆弱になります。

10分間一時停止

適用 キャンセル

ウイルス対策機能を一時的に無効にすることが可能です。また、一時停止する時間も指定することが可能です。

2-1-5. スケジューラ

- ツールのスケジューラを使用することで、検出エンジンのアップデートやコンピューターの検査を定期的に行うことが可能です。これにより、自動的にアップデートや検査が実施されるため、ユーザーが意識することなく、セキュリティをより強固にすることが可能です。



検査を行ったオブジェクトの統計を確認することが可能です。

スケジューラの機能を使用することで定期的に検出エンジンのアップデートを行うことやコンピューターの検査を実施することが可能です。

新たにスケジュールを追加する際は「タスクの追加」をクリックします。

タスク	名前	トリガー	次回の実行	前回の実行	
<input checked="" type="checkbox"/>	ログの保守	ログの保守	タスクは毎日2:00:...	2023/03/22 2:00:00	2023/03/21 2:00:01
<input checked="" type="checkbox"/>	アップデート	定期的に自動ア...	タスクは60分ごと...	2023/03/21 11:24:...	2023/03/21 10:24:01
<input checked="" type="checkbox"/>	アップデート	ダイヤルアップ接...	インターネット/NP...	イベントごと	
<input type="checkbox"/>	アップデート	ユーザーログオン...	ユーザーログオン ...	イベントごと	
<input checked="" type="checkbox"/>	システムのスタ...	自動スタートアッ...	ユーザーログオン ...	イベントごと	2023/03/21 1:22:01
<input checked="" type="checkbox"/>	システムのスタ...	自動スタートアッ...	モジュールアップ...	イベントごと	2023/03/21 10:24:06

2. ESET Server Security for Microsoft Windows Server V11の機能紹介

2-2. 詳細設定について

2-2-1. 検出エンジン

- 検出エンジンの項目では、コンピューターのパフォーマンスを低下させる恐れのあるアプリケーションや不正利用される可能性のあるアプリケーションを検出させるかどうかを設定することなどが可能です。



The screenshot shows the 'Detection Engine' settings in ESET Server Security. The window title is 'ESET SERVER SECURITY' and the subtitle is '詳細設定' (Detailed Settings). The '検出エンジン' (Detection Engine) section is highlighted with a red dashed box. Below it, there are three detection levels, each with a red box around its title and a callout explaining it:

- 望ましくない可能性のあるアプリケーション** (Applications with undesirable possibilities): Explained as detecting applications that may negatively impact performance when installing software or toolbars.
- 疑わしい可能性のあるアプリケーション** (Applications with suspicious possibilities): Explained as detecting compressed programs that may contain malware, used by creators to evade detection.
- 安全ではない可能性のあるアプリケーション** (Applications that are not safe): Explained as detecting applications that may be misused, such as remote access tools or password cracking tools.

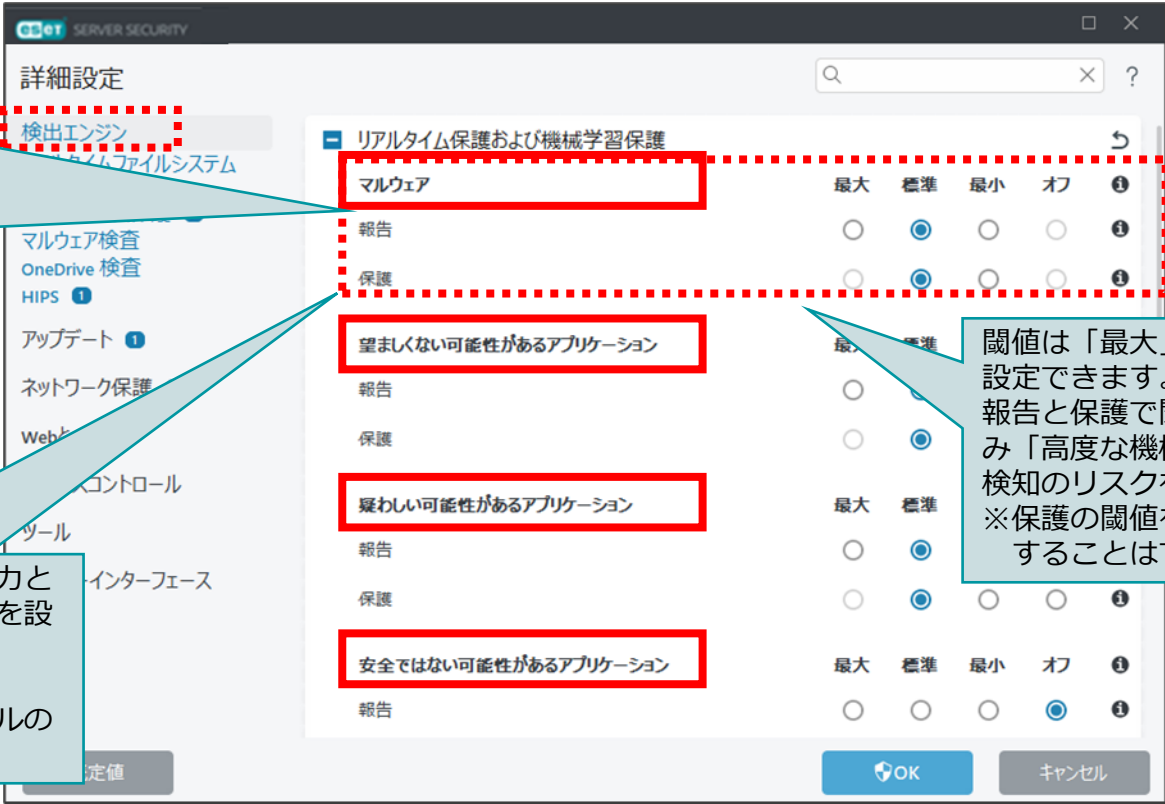
At the bottom, the 'アンチステルス技術' (Anti-stealth technology) section is highlighted with a red box, with a callout explaining that it detects dangerous programs like rootkits by making them invisible to the operating system.

On the right side of the window, there are three rows of radio buttons for '報告' (Reporting) and '保護' (Protection) for each detection level. The '標準' (Standard) option is selected for all.

At the bottom of the window, there are buttons for '既定値' (Default), 'OK', and 'キャンセル' (Cancel).

2-2-2. 機械学習保護

- 機械学習保護は、リアルタイムスキャンやオンデマンドスキャンでの検出に利用できます。ESET独自の機械学習アルゴリズムを利用して、ESET社のクラウド環境に接続することなくローカル内で機械学習による、より高度な解析を実現します。



高度な機械学習モジュールを利用して、以下の検出の閾値を設定可能です。

- ・マルウェア
- ・望ましくない可能性があるアプリケーション
- ・疑わしい可能性があるアプリケーション
- ・安全ではない可能性があるアプリケーション

「報告」では、検出時にログへの出力とデスクトップへの通知における閾値を設定できます。

「保護」は、検出時のブロックレベルの閾値になります。

閾値は「最大」「標準」「最小」「オフ」の4段階に設定できます。報告と保護で閾値を分けることが可能なため、報告のみ「高度な機械学習モジュール」を利用するなど、誤検知のリスクを減らしながら運用することも可能です。※保護の閾値を報告の閾値より大きい値に設定することはできません。

検出エンジン	検出項目	報告	保護	閾値
リアルタイム保護および機械学習保護	マルウェア	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	最大
	報告	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	標準
	保護	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	最小
	保護	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	オフ
望ましくない可能性があるアプリケーション	報告	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	最大
	保護	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	標準
	報告	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	最小
	保護	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	オフ
疑わしい可能性があるアプリケーション	報告	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	最大
	保護	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	標準
	報告	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	最小
	保護	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	オフ
安全ではない可能性があるアプリケーション	報告	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	最大
	保護	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	標準
	報告	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	最小
	保護	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	オフ

2-2-3. Antimalware Scan Interface(AMSI)保護

- WindowsのAntimalware Scan Interface(AMSI)との連携が可能です。
AMSI保護を有効にすることでPowerShellでスクリプトが実行される前にESETで検査し、安全である場合のみ実行が可能となります。これにより、悪意のあるプログラムのインストールを行わないファイルレスマルウェア攻撃の検出が可能です。

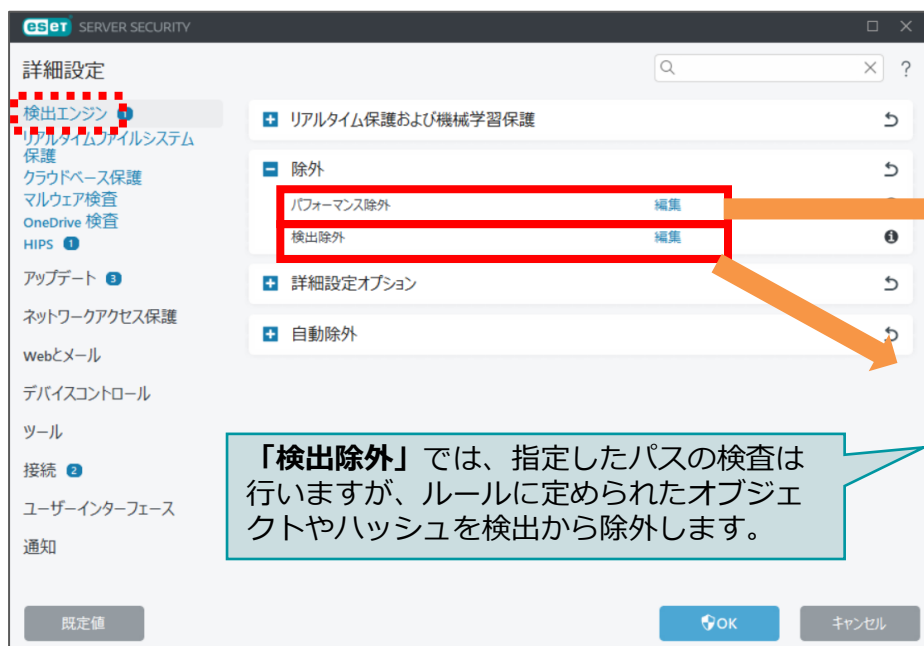
※AMSI保護はWindows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022でのみ利用可能です。



※Antimalware Scan Interface(AMSI)
AMSIはWindows Server 2016から導入されたWindowsのマルウェア防御技術です。
AMSIはアンチマルウェアプログラムと連携して、PowerShellなどのスクリプト攻撃に対処します。詳しくはMicrosoft社にご確認ください。

2-2-4. 除外

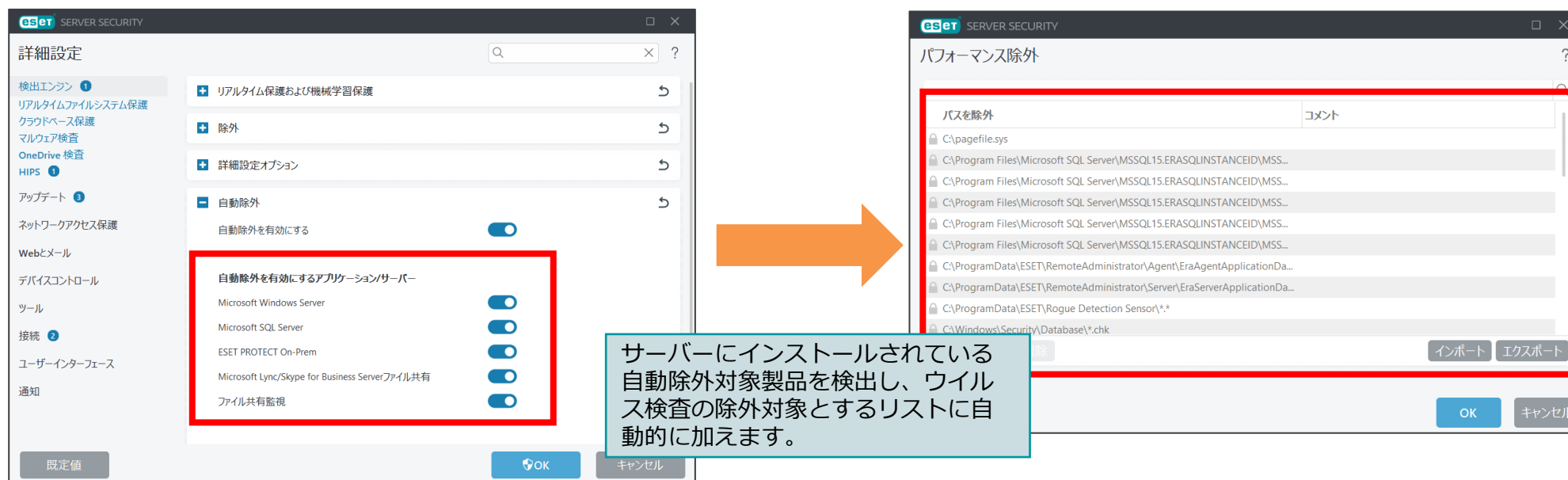
- 除外の設定を行うことで、特定のファイルやフォルダをウイルス検査の対象から外すことが可能です。パス、ハッシュ値、検出名で除外設定を行えます。独自開発したアプリケーションやデータベースなどを除外の対象とすることで、誤検知やデータベースなどを検査した際のCPU使用率の上昇を防ぐことが可能です。



「パフォーマンス除外」では、特定のファイルやフォルダを検査対象から除外することが可能です。

2-2-5. 自動除外

- ESET Server Security for Microsoft Windows Serverではサーバーアプリケーションやデータベースなどのファイルを自動的にウイルス検査の対象から除外することが可能です。これにより、手動でウイルス検査の対象から除外する設定をすることなく、サーバーの全体的なパフォーマンスを向上することが可能です。



The image shows two screenshots from the ESET Server Security interface. The left screenshot shows the '詳細設定' (Detailed Settings) window with the '自動除外' (Automatic Exclusion) section highlighted in red. The right screenshot shows the 'パフォーマンス除外' (Performance Exclusion) window, also with a red border, displaying a list of excluded paths. An orange arrow points from the left window to the right window. A text box in the center explains the process.

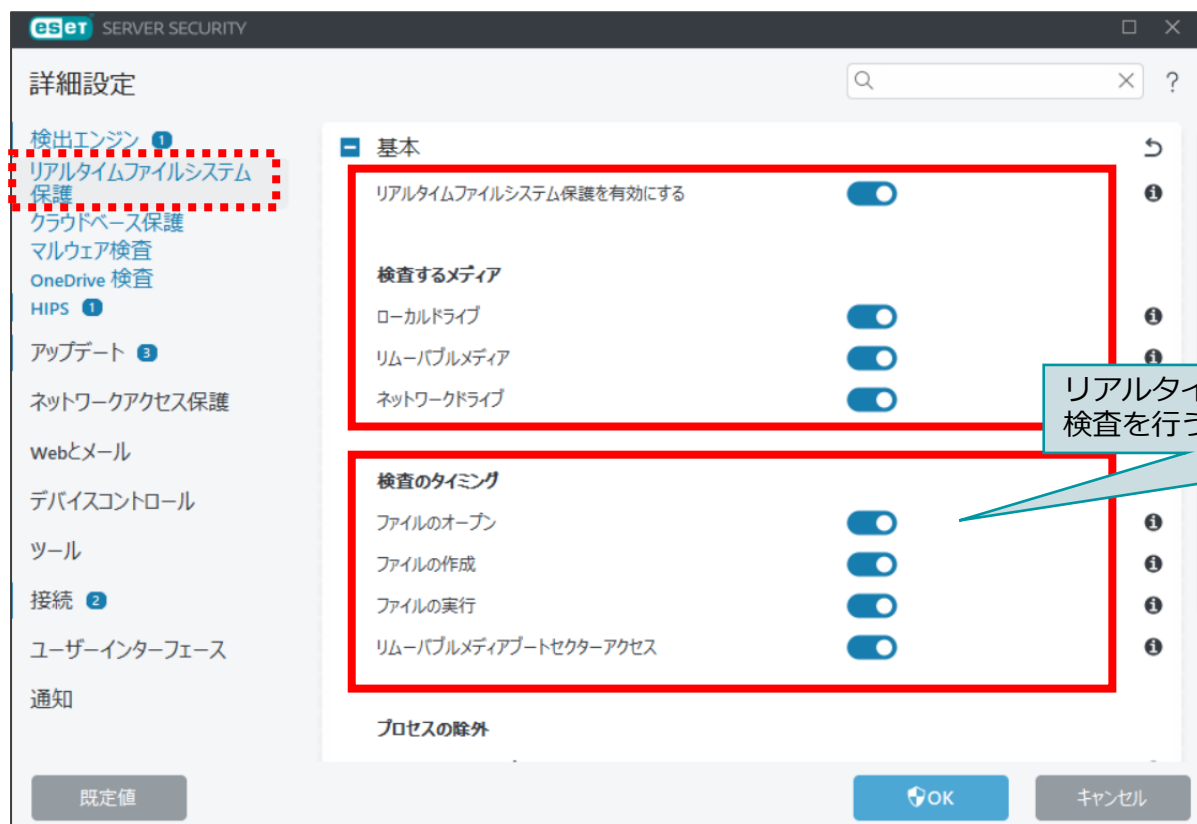
サーバーにインストールされている自動除外対象製品を検出し、ウイルス検査の除外対象とするリストに自動的に加えます。

【自動除外対象製品】

- Microsoft Windows Server
- Microsoft SQL Server
- Microsoft Exchange Server
- Microsoft ISA Server
- Microsoft Fore Front Threat Management Gateway
- Microsoft Internet Information Server
- Microsoft Hyper-V
- IBM Lotus Domino Server
- Kerio Connect
- Kerio Control
- ESET Security Management Center サーバー
- Microsoft Lync Server
- Microsoft Skype for Business Server
- Microsoft SharePoint Server

2-2-6. リアルタイムファイルシステム保護

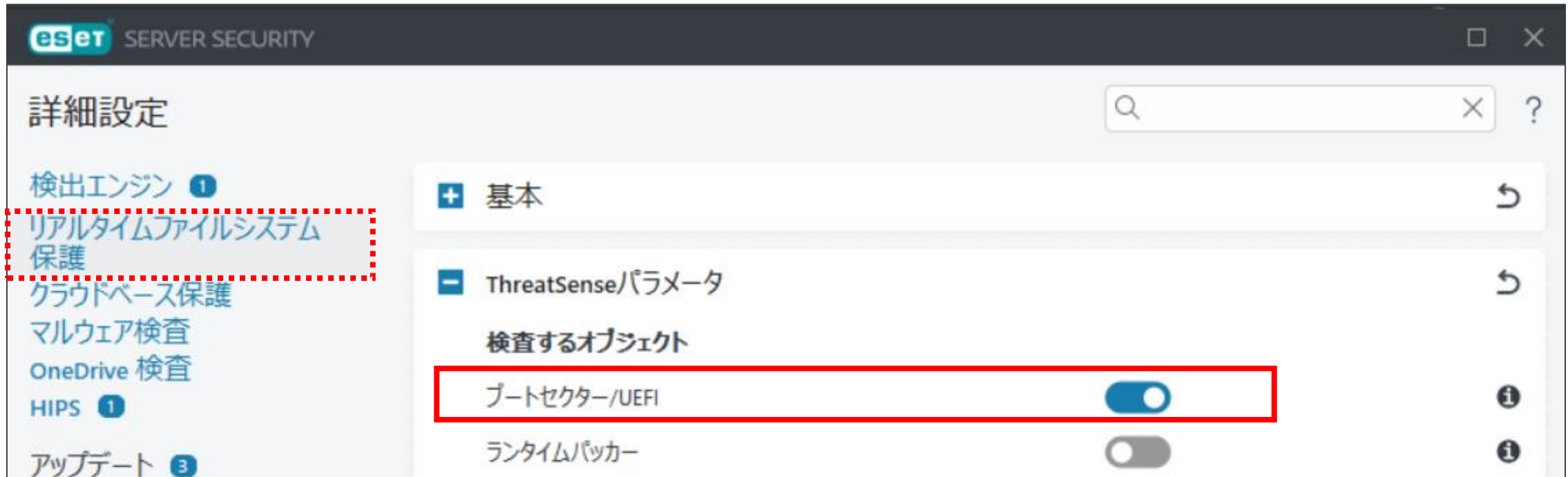
- リアルタイムファイルシステム保護を使用すると、ファイルを開くときや作成するとき、実行するときには検査を行うことが可能です。リアルタイムファイルシステム保護は、システム起動時に開始され、中断することなく常に端末を保護します。



リアルタイムファイルシステム保護を有効にするメディアや、検査を行うタイミングを設定できます。

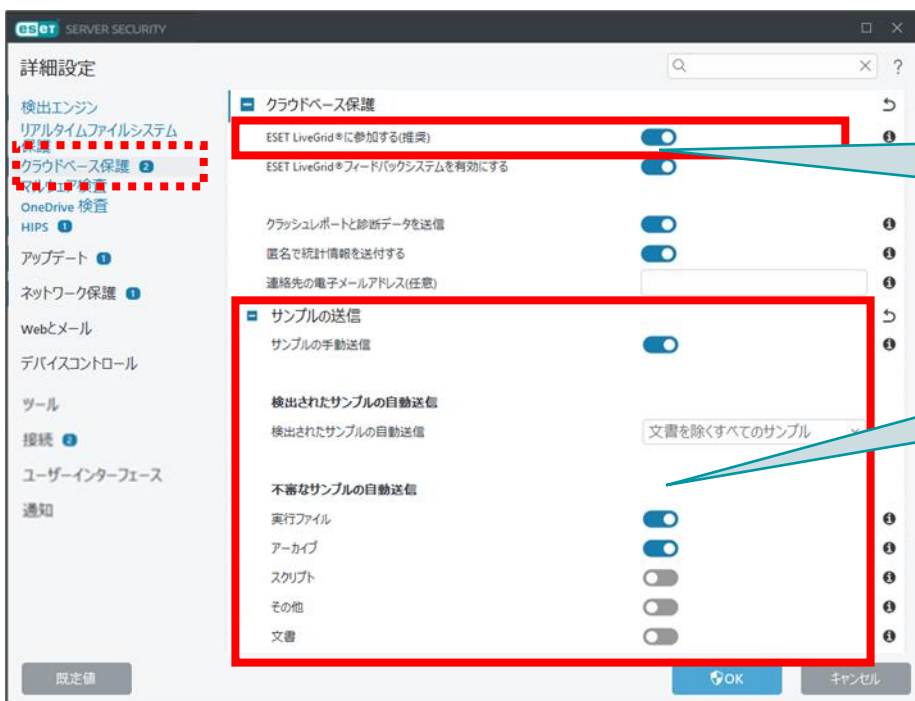
2-2-7. UEFIスキャナー

- UEFIスキャナーは、HIPSの一部であり、コンピューターのUEFIを保護します。UEFIはブートプロセスの最初にメモリに読み込まれるファームウェアです。UEFIスキャナーにより、UEFIに感染しシステムを制御するマルウェアの検出が可能です。



2-2-8. クラウドベース保護

- ESET LiveGrid®に参加すると、クラウドシステムにより実行中のプロセスの全世界における使用状況が共有されます。これにより実行中のプロセスのリスクレベルを確認できます。ESET LiveGrid®に不審なファイルを送付すると、送付されたファイルはESET LiveGrid®により解析されます。これは、新たな脅威からESETユーザーを守ることに繋がります。



「ESET LiveGrid®に参加する」

実行中のプロセスの全世界における使用状況を確認するにはチェックを付けてください。ESET LiveGrid®から受け取ったホワイトリストを使用してスキャンパフォーマンスを改善できます。

「サンプルの送信」

ESET LiveGrid®に送信するサンプルファイルの種類を設定することが可能です。

※ESET LiveGrid®

ESET LiveGrid®は複数のクラウド技術から構成される高度な早期警告システムです。詳細は下記Webページをご参照ください。

<https://eset-info.canon-its.jp/business/reason/#anc01>

2-2-9. マルウェア検査

- マルウェア検査では、コンピューターの検査の際の詳細設定を行うことが可能です。検査の対象やウイルス発見時の動作、機械学習保護機能を利用した報告・保護レベルも設定できます。また、アイドル状態時の検査についての設定も可能です。

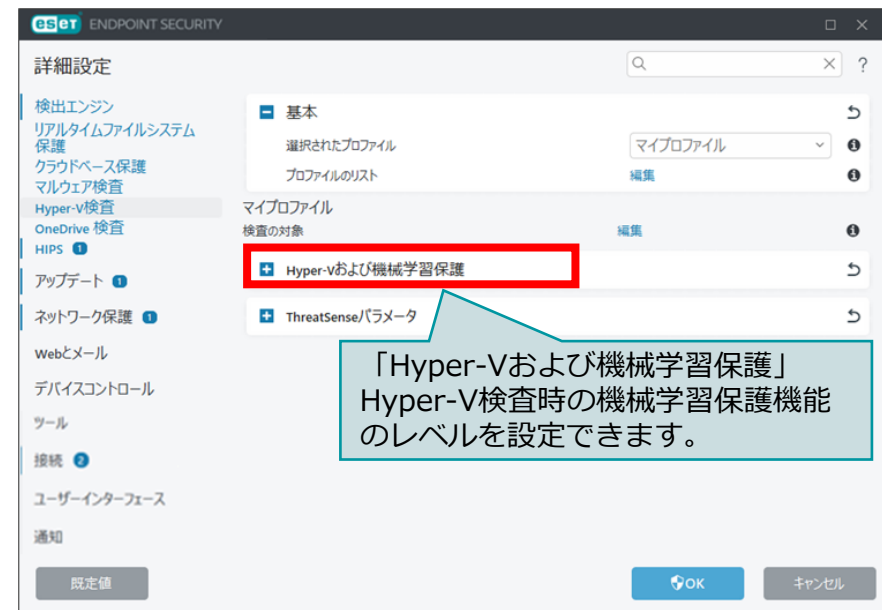
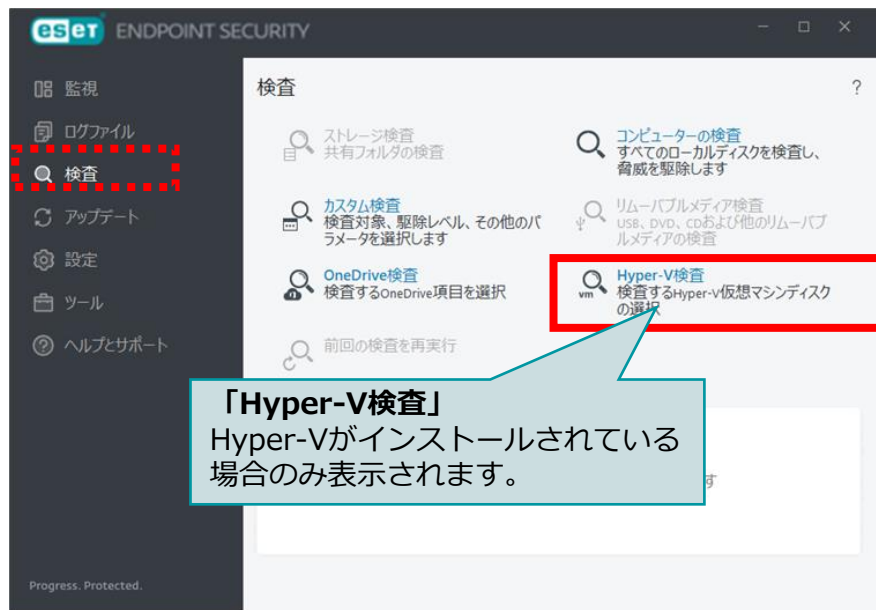


「オンデマンド保護および機械学習保護」
 オンデマンド検査時の機械学習保護機能のレベルを設定できます。
 ※アイドル状態検査、スタートアップ検査、ドキュメント保護では、機械学習保護機能は利用できません。

「アイドル状態検査」
 コンピューターのアイドル状態(スクリーンセーバーの起動時、コンピューターのロック、ユーザーのログオフ)の間を利用して、コンピューター全体の検査をサイレントに実行する機能です。

2-2-10. Hyper-V検査

- Hyper-V検査により、Microsoft Hyper-V Server上の仮想マシンディスクを検査することができます。ただし、脅威を駆除できるのは仮想マシンが起動していない場合のみです。仮想マシンが起動している場合、仮想マシンのスナップショットが作成され、作成されたスナップショットに対し読み取り専用モードで検査が実行されるため駆除は行われません。



※Hyper-V検査がサポートされるOSは下記となります。
Windows Server 2012、Windows Server 2012R2、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022

2-2-11. OneDrive検査

- OneDrive検査により、Microsoft OneDrive for Businessクラウドストレージに保存されているファイルやフォルダーを検査することが可能です。なお、本機能を使用する場合は、Microsoft OneDrive/Office365管理者アカウントの資格情報を登録する必要があります。



2-2-12. HIPS

- HIPS(Host-based Intrusion Prevention System)により、コンピューターのセキュリティに悪影響を与えようとする望ましくない活動およびマルウェアからシステムが保護されます。HIPSは、高度な動作分析とネットワークフィルタリングの検出機能を連携して、実行中のプロセス、ファイル、およびレジストリキーを監視します。

※HIPS設定の変更は、経験豊富なユーザーだけが行ってください。HIPSの設定が正しくないと、システムが不安定になる可能性があります。



「自己防衛を有効にする」
自己防衛は悪意のあるソフトウェアによって、重要なシステムおよびESETのプロセス、レジストリキー、およびファイルを改ざんから防止し、スパイウェア対策の保護機能が破損されたり、無効化されたりしないようにしています。

2-2-13. アドバンスドメモリスキャナー

- 実行中のメモリの詳細な検査を実施し、難読化や巧妙な手法で偽装されたウイルスの検出が可能です。これにより、シグネチャ検査やヒューリスティック検査でも検出が難しい難読化・暗号化されたウイルスについても検出します。



※ヒューリスティック
ウイルス検出手法の一種で、プログラムの挙動を分析して悪意あるプログラムかを判定する技術を意味します。
詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00092.html

また、下記Webページもご参照ください。
<https://eset-info.canon-its.jp/business/reason/#anc01>

2-2-14. エクスプロイトブロッカー

- ブラウザー、メールソフトウェア、PDFリーダー、JAVAなどのアプリケーションの脆弱性を悪用するウイルスからコンピューターを保護することが可能です。疑わしい振る舞いを検出したら、直ちに動作をブロックします。これにより脆弱性を悪用して個人情報やFTPアカウントなどを盗もうとするウイルスを検知することが可能です。



※エクスプロイト

ソフトウェアの脆弱性を暴く行為、またはそのための検証コードを意味します。詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00048.html

※脆弱性(バリエナラビリティ)

コンピューター関連のプログラムに潜む欠点や盲点、弱点のことで、「セキュリティ・ホール」とも呼ばれます。詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00068.html

2-2-15. ランサムウェア保護

- ランサムウェア保護は、データを修正しようとするアプリケーションとプロセスの動作を監視します。悪意のあるアプリケーションの動作が発見された場合や、ESET LiveGridからの情報によって不審なアプリケーションであると示された場合、そのアプリケーションを、自動的にブロックすることなどが可能です。

※この機能を正しく動作させるには、ESET LiveGridを有効にする必要があります。



※ランサムウェア
 ファイルを暗号化するなどの障害を意図的に発生させ、その解決のための身代金を要求するマルウェアのことです。
 詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。
https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00104.html

2-2-16. アップデート

- アップデートの項目では、検出エンジンの取得先を変更することなどが可能です。ミラーサーバーより検出エンジンの取得をする場合は、こちらの項目より設定してください。また、アップデートサーバーは通常のアップデートサーバーのほか、通常の検出エンジンの配信より少し早く配信されるテストモードや、逆に通常配信後12時間経過してから配布される遅延アップデートを選ぶことが可能です。

※テストモードはESET社内部テストを経てリリースされますが、常に安定しているわけではありません。高い可用性や安定性が必要な実働サーバーやワークステーションでは決して使用しないでください。



「モジュールロールバック」
検出エンジンのアップデートにより問題が起きた場合にロールバックすることができます。既定では、1つ分のスナップショットを保存します。

モジュールロールバック
モジュールのスナップショットを作成
ローカルに保存するスナップショットの数: 1
前のモジュールにロールバック

「製品のアップデート」
最新プログラムを自動ダウンロードおよびインストールできる機能です。サイバー攻撃が進化する中、常に最新のプログラムを利用することで高いセキュリティレベルを維持できます。デフォルト設定では有効になっています。※プログラムのバージョンによっては手動でのバージョンアップが必要な場合があります。※旧バージョンのPCU設定値は引き継がれません。

製品のアップデート
自動アップデートを一時停止
カスタムサーバー: 自動選択
ユーザー名:
パスワード:

2-2-17. ミラー機能

- ミラー機能とは、ESET社から配布される検出エンジンなどのアップデートファイルをミラーリングし、クライアントに配布する機能です。これにより、検出エンジンのアップデートにインターネット負荷が軽減されます。

また、ESET Endpoint Security / ESET Endpoint アンチウイルスにもミラー機能が搭載されているので、サーバーをご用意いただくなくても、ミラー環境を構築することが可能です。

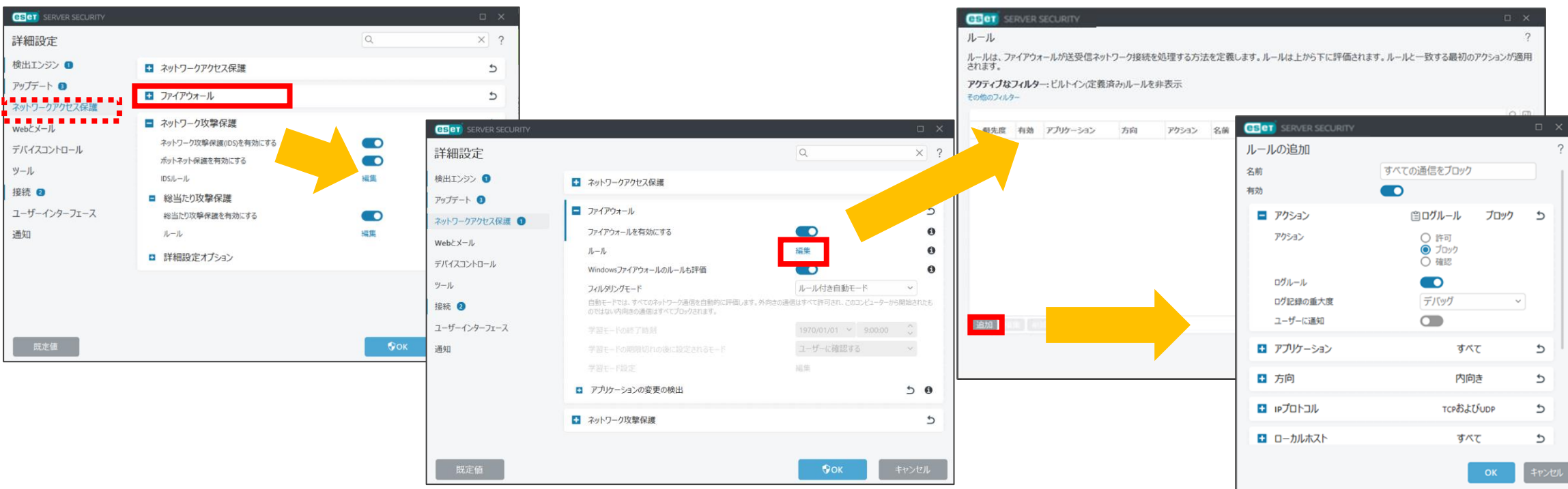




2-2-18. ファイアウォール

- 不正侵入対策(パーソナルファイアウォール)によって、ネットワークトラフィックを確認し、ルールに基づいた接続の許可や拒否の設定を行うことが可能です。
 プロトコル、ポート、アプリケーションなどの指定によるルール作成が可能です。
 ※ESSW V11.0より追加された機能です。

詳細設定(ネットワークアクセス保護画面)

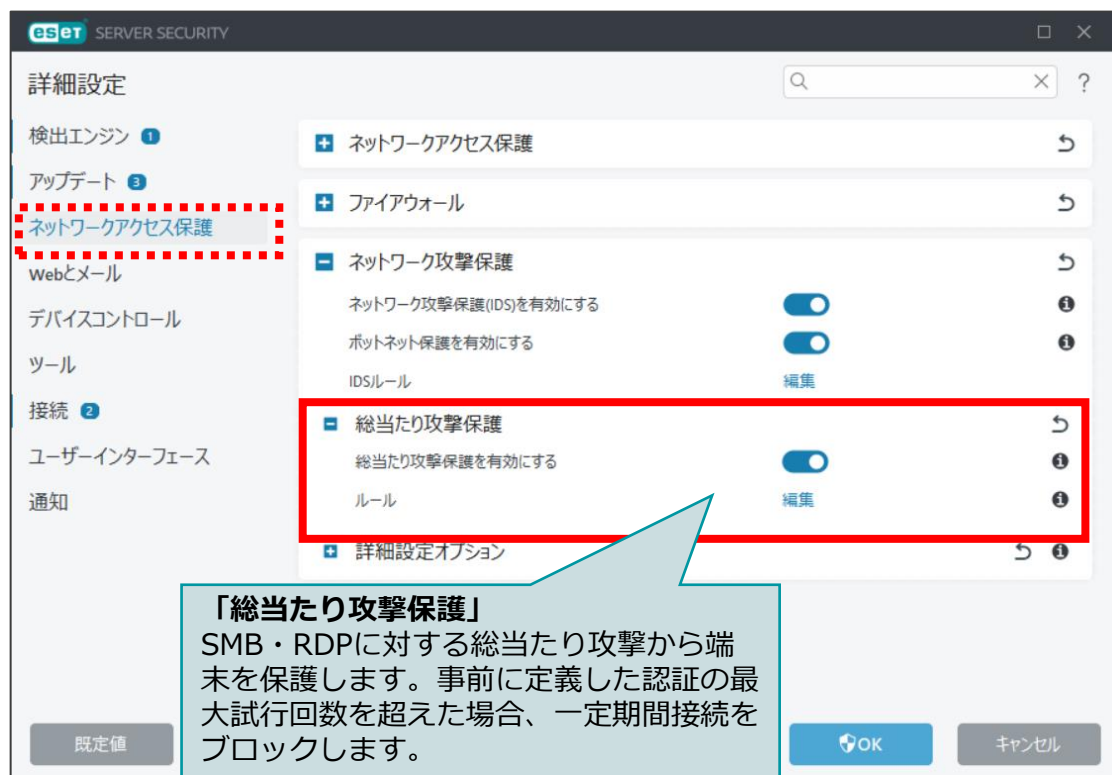


The screenshots illustrate the steps to configure the firewall:

- Screen 1:** The 'Network Access Protection' settings window. The 'Firewall' option is highlighted with a red box. A yellow arrow points to the 'Edit' button next to it.
- Screen 2:** The 'Firewall' configuration window. The 'Edit' button is highlighted with a red box. A yellow arrow points to the 'Add' button at the bottom.
- Screen 3:** The 'Rules' list window. The 'Add' button is highlighted with a red box. A yellow arrow points to the 'Add Rule' dialog box.
- Screen 4:** The 'Add Rule' dialog box. The 'Block all communications' option is selected. A yellow arrow points to the 'OK' button.

2-2-19. ネットワーク攻撃保護

- ネットワークトラフィックの内容を分析し、ネットワーク攻撃から保護します。有害だと見なされるすべてのトラフィックがブロックされます。これによりワーム攻撃、DoS攻撃、ポートスキャン攻撃などを検出することが可能です。



詳細設定

検出エンジン ①

アップデート ③

ネットワークアクセス保護

Webとメール

デバイスコントロール

ツール

接続 ②

ユーザーインターフェース

通知

ネットワークアクセス保護

ファイアウォール

ネットワーク攻撃保護

ネットワーク攻撃保護(IDS)を有効にする

ポットネット保護を有効にする

IDSルール

総当たり攻撃保護

総当たり攻撃保護を有効にする

ルール

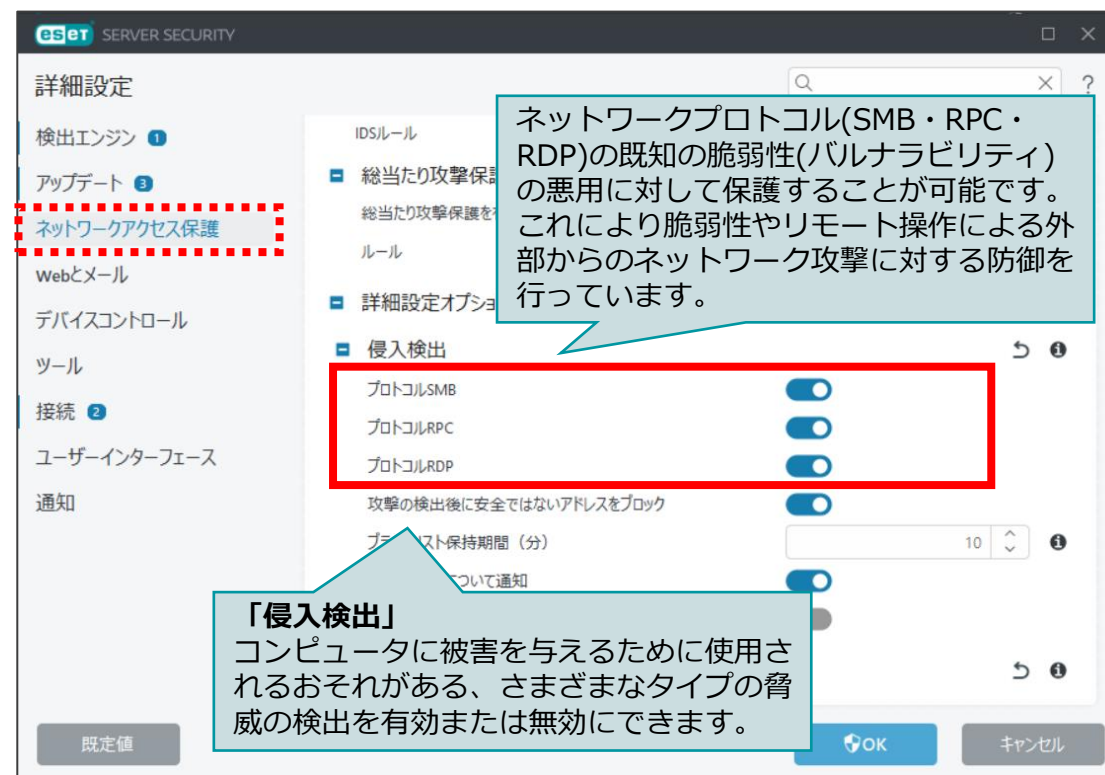
詳細設定オプション

既定値

OK

キャンセル

「総当たり攻撃保護」
SMB・RDPに対する総当たり攻撃から端末を保護します。事前に定義した認証の最大試行回数を超えた場合、一定期間接続をブロックします。



詳細設定

検出エンジン ①

アップデート ③

ネットワークアクセス保護

Webとメール

デバイスコントロール

ツール

接続 ②

ユーザーインターフェース

通知

IDSルール

総当たり攻撃保護

総当たり攻撃保護を有効にする

ルール

詳細設定オプション

侵入検出

プロトコルSMB

プロトコルRPC

プロトコルRDP

攻撃の検出後に安全ではないアドレスをブロック

ブロードキャスト保持期間(分)

この機能について通知

既定値

OK

キャンセル

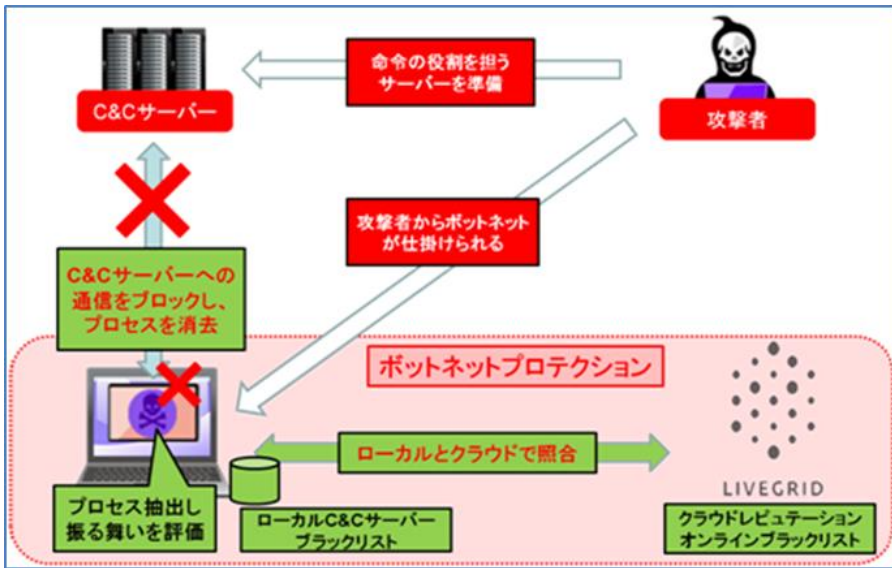
ネットワークプロトコル(SMB・RPC・RDP)の既知の脆弱性(バルナラビリティ)の悪用に対して保護することが可能です。これにより脆弱性やリモート操作による外部からのネットワーク攻撃に対する防御を行っています。

「侵入検出」
コンピュータに被害を与えるために使用されるおそれがある、さまざまなタイプの脅威の検出を有効または無効にできます。

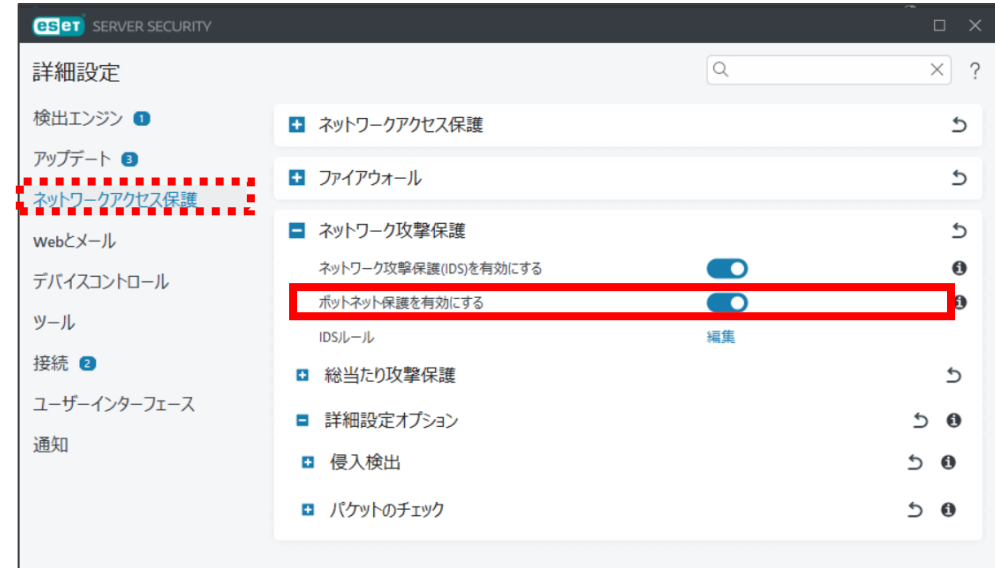
2-2-20. ボットネット保護

- 通信を解析し、リモートからのアクセスを検知して、迅速にボットを検出します。多重防御における防御層のひとつとして、不正サーバーへの送信となる不審な通信やアドレスを検知して遮断することで、標的型攻撃を防ぎます。

ボットネット攻撃例



基本設定(ネットワーク設定画面)



※ボットネット

第三者の指示通りに動く操り人形(ロボット)にしてしまう悪意のあるプログラムが「ボット」、ボットをいくつも集めてネットワーク化したものがボットネットと呼ばれます。

※下記サイバーセキュリティ情報局のWebページ『ボットネットとは何か？ どうやって防ぐのか？』もご参照ください。

https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/trend/detail/150120_3.html

2-2-21. 電子メール通知

- 電子メール通知を使用することで、各端末で「ウイルスを検出した」などのイベントが発生した際に、管理者にメールで通知することが可能です。
これにより、ウイルス感染などの問題が発生した際に、素早く対処に取り掛かることが可能です。



電子メール通知機能を使用する場合はチェックを付けてください。

送信する通知のログレベルを設定します。また、メールが送信される間隔も設定でき、間隔を「0」に設定することでリアルタイムでメールを受信できます。

使用するSMTPサーバー名を入力します。また、「SMTPサーバー名:ポート番号」と入力することでポートを指定することが可能です。
※既定では25番ポートを使用します。

2-2-22. WEBとメール

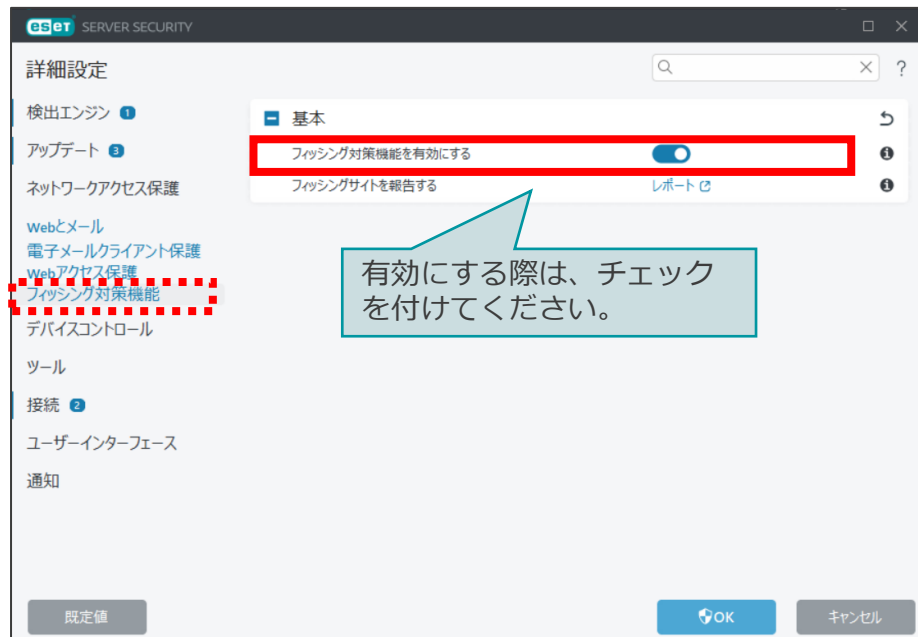
- プロトコルフィルタリングの機能により、使用しているインターネットブラウザやメールクライアントに関係なく、HTTP(S)、POP3(S)、IMAP(S)トラフィックの検査を行い、ウイルスを検出することが可能です。これによりWebブラウザやメールの添付ファイルに潜むウイルスを検知することが可能です。



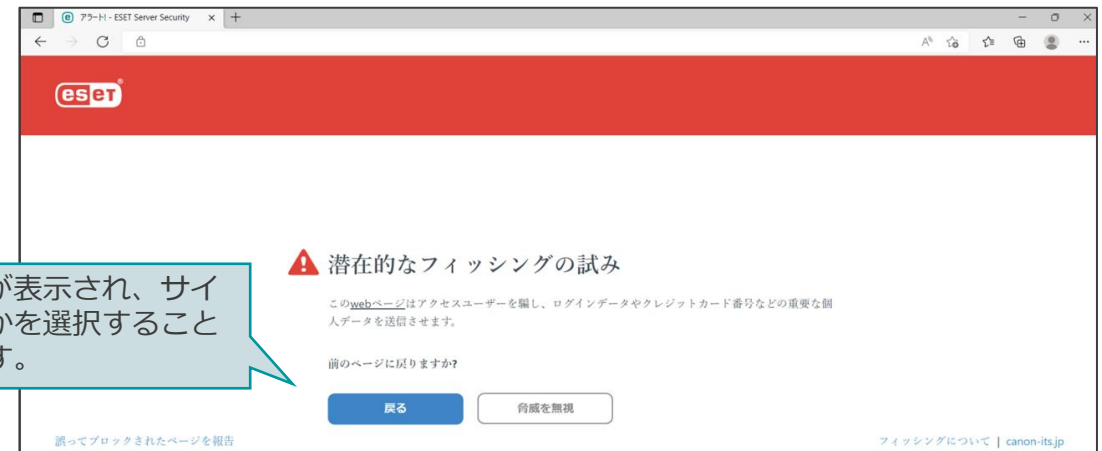
2-2-23. フィッシング対策

- フィッシングサイトのリスト、シグネチャと照合・検査を行います。フィッシングページへアクセスするとアクセスを抑止するダイアログが表示されます。また、フィッシングページと思われるURLをユーザーが開発元ESET社へ報告することも可能です。

詳細設定(フィッシング対策)



潜在的なフィッシングの脅威検出画面



※フィッシング詐欺

実在する会員制のインターネットサービスなどを装い、利用者からIDやパスワード、クレジットカード情報、暗証番号などの個人情報を窃取する不正行為を意味します。

詳細はサイバーセキュリティ情報局、キーワード辞典をご参照ください。

https://eset-info.canon-its.jp/malware_info/term/detail/00128.html

2-2-24. デバイスコントロール

- デバイスコントロール機能を使用することで、CD/DVDドライブ、USB接続のストレージデバイスなどの利用を制御することが可能です。これにより、各端末上で利用できるデバイスを制限し、USBメモリやスマートフォンなどで機密情報を含むファイルなどを持ち出されることを防ぐことが可能です。

設定可能なデバイスのタイプとアクション

デバイスタイプ	アクション			
	読み込み/書き込み	読み取り専用	ブロック	警告
ディスクストレージ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CD/DVD	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
USBプリンタ	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
FireWireストレージ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Bluetoothデバイス	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
スマートカードリーダー	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
イメージングデバイス	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
モデム	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
LPT/COMポート	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ポータブルデバイス	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
すべてのデバイスタイプ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

デバイスコントロール設定



ルール名: 無題

有効:

適用期間: 常に

デバイスタイプ: ディスクストレージ

アクション: 許可

条件: デバイス

ベンダー

モデル

シリアル番号

ログ記録の重大度: 常に

ユーザー一覧: 編集

ユーザーに通知:

OK

デバイスコントロール警告メッセージ画面



デバイスアクセス制限

現在のデバイスコントロールポリシーは接続されたデバイスへのアクセスを制限します。

デバイスにアクセスする場合は、インシデントがセキュリティログに記録されます。

アクセス制御

ブロック

このメッセージの詳細を見る

ベンダー、モデル(型番)、シリアルを入力することで詳細な制御が可能です。

2-2-25. タイムスロット

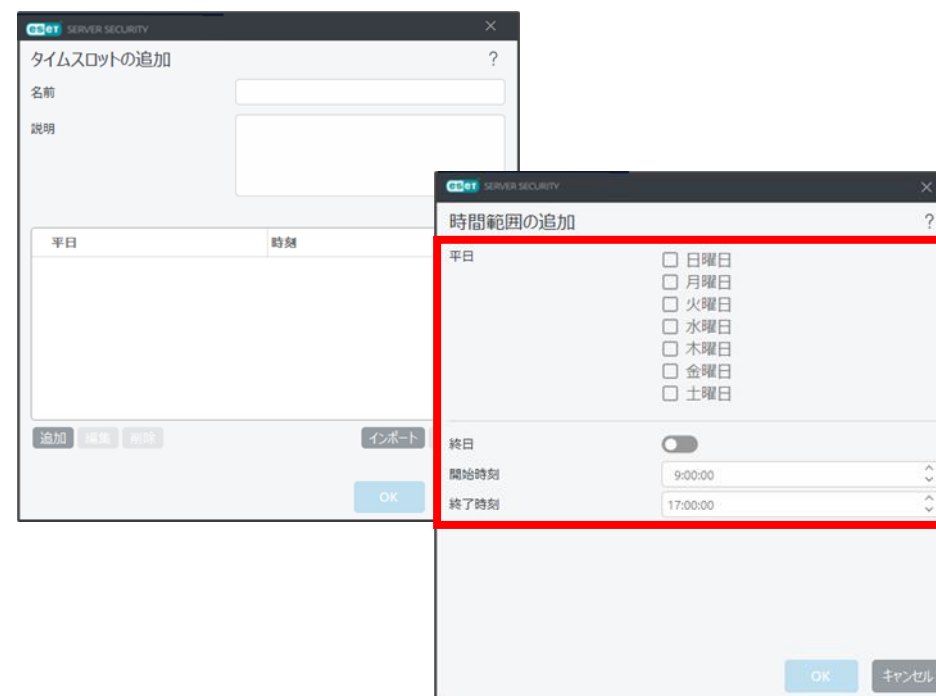
- 事前に「タイムスロット」の設定にて期間を作成しておくことで、デバイスコントロールルールを作成する際に、ルールを適用する時間帯や曜日を指定することが可能です。
これにより、業務時間中のみ特定のデバイスの利用を制限するなどお客様の運用に合わせて柔軟な運用が可能です。

タイムスロット詳細設定



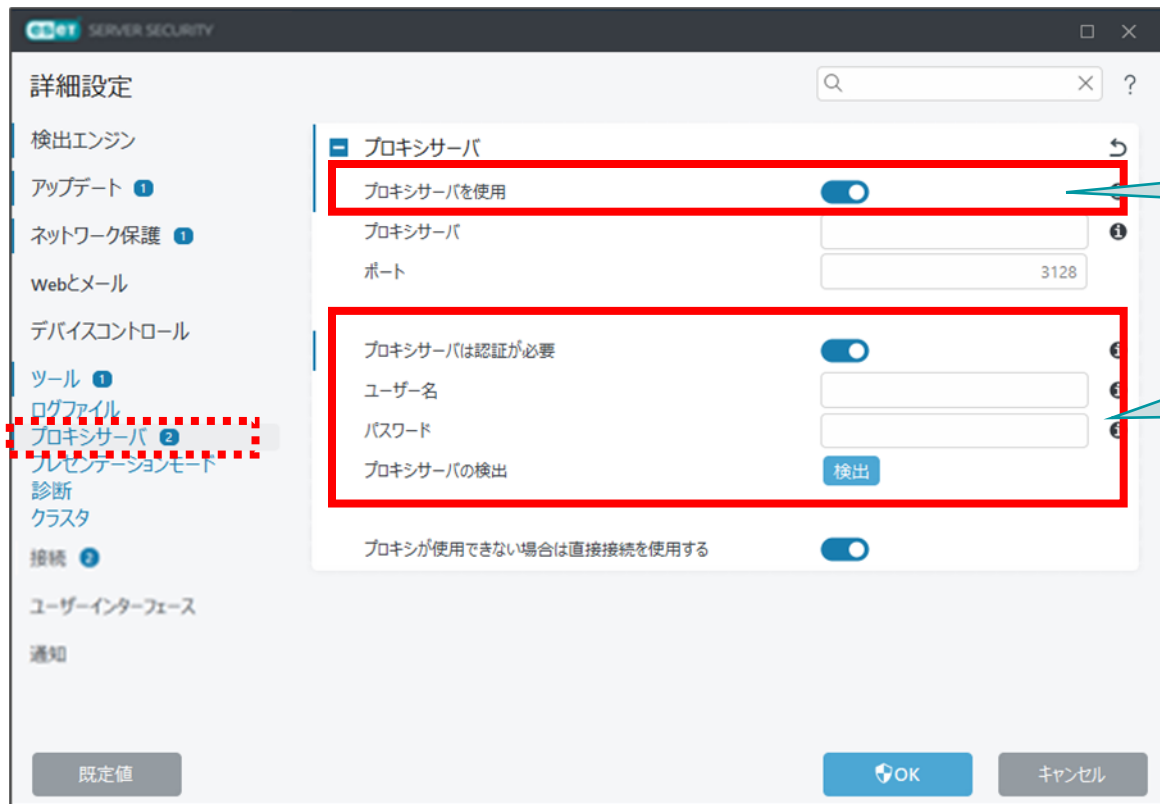
名前	説明
月~金9:00~12:00まで適用	午前の業務時間
月~金13:00~17:30まで適用	午後の業務時間

事前にタイムスロットの設定で曜日と時間を設定しておくことで、「デバイスコントロール」のルール設定において、適用期間の設定項目として選択が可能になります。



2-2-26. プロキシサーバ

- 検出エンジンのアップデートやESETのウイルス・スパイウェア対策プログラムのアクティベーション(認証)を、インターネット経由で行う場合、インターネットに接続する際にプロキシサーバを経由する環境では、ESETのウイルス・スパイウェア対策プログラムにプロキシサーバの設定を行う必要があります。

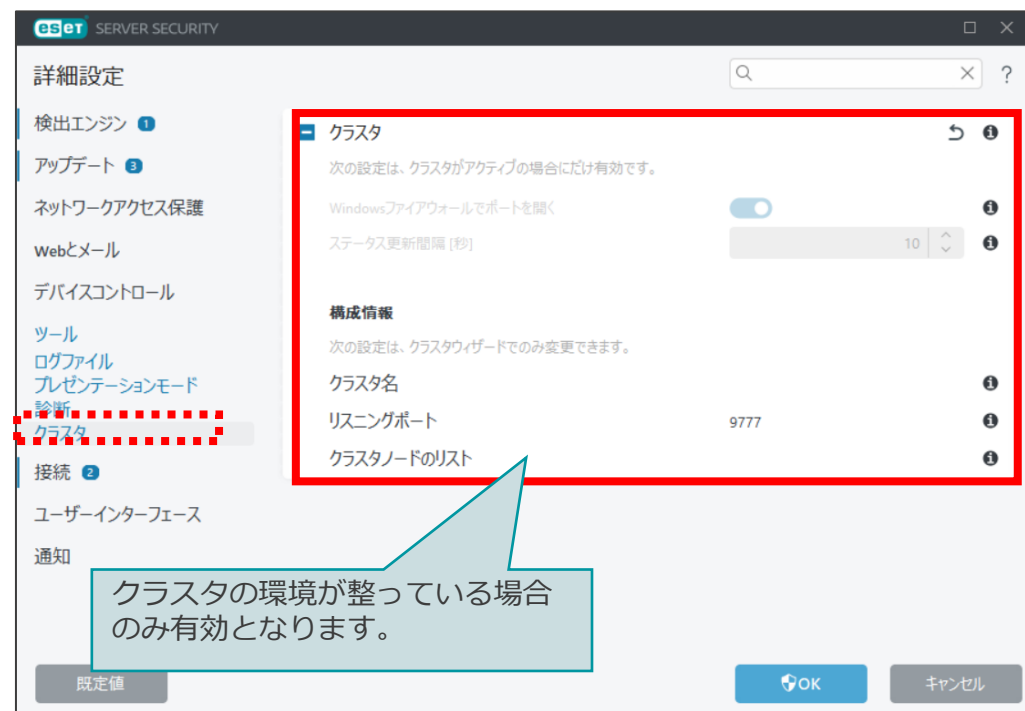
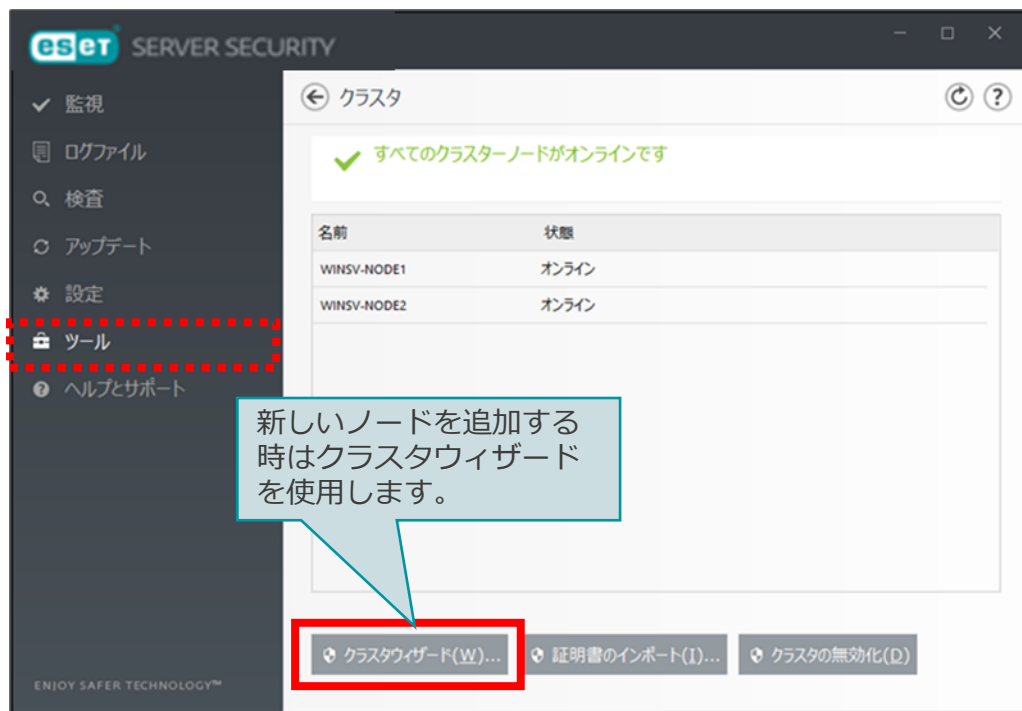


プロキシサーバを設定する際はチェックを付けてください。

プロキシサーバで認証が必要な場合は、チェックを付け有効なユーザー名とパスワードを入力してください。

2-2-27. クラスタ

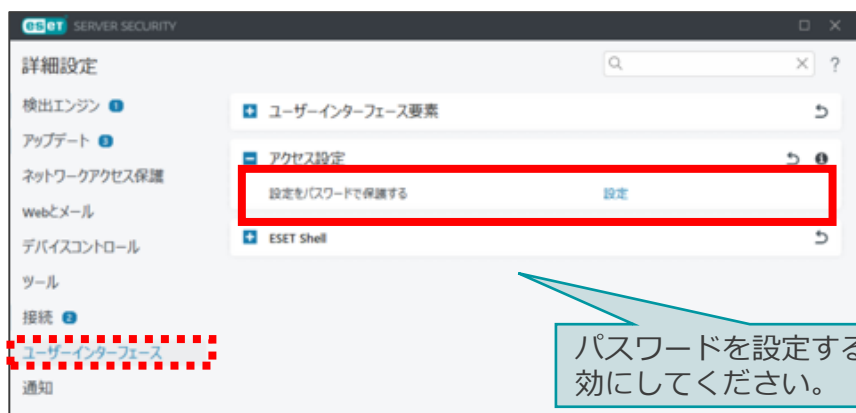
- クラスタを構築した場合、サーバー同士が通信を行い ESET Server Security for Microsoft Windows Server をインストールさせたり、設定情報などを同期させたりすることが可能です。クラスタを構築するためにはクラスタウィザードを使用します。クラスタウィザードを使用することで、新たなノードの追加やクラスタ名などを設定することが可能です。



2-2-28. パスワード保護

- 設定をパスワードで保護することにより、ユーザーによる設定変更や、ESETのウイルス・スパイウェア対策プログラムのアンインストールを防止することが可能です。

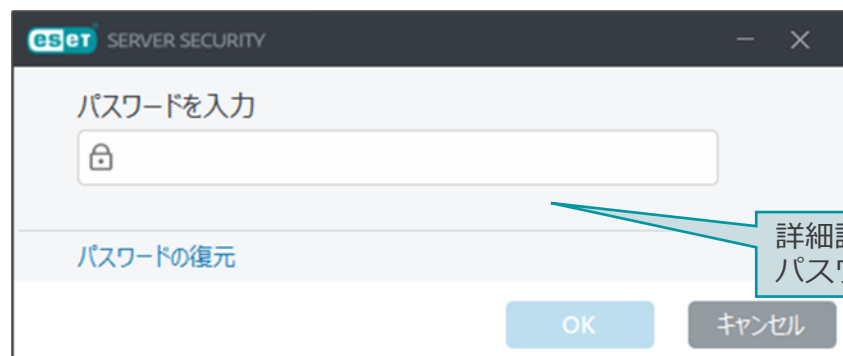
パスワード設定画面



パスワードを設定する場合は有効にしてください。



パスワード入力画面(詳細設定を確認する場合)



詳細設定を確認する際やアンインストール時にパスワード入力を求められます。

パスワード入力画面(アンインストールする場合)



3. プログラム別の機能比較

3. プログラム別の機能比較 (1/2)

機能名	EFSW	ESSW			
	V7	V8	V9	V10	V11
ウイルス・スパイウェア対策機能					
コンピューターの検査	○	○	○	○	○
ユーザーインターフェースからのドラッグアンドドロップ検査	○	○	○	○	○
スクリプトに基づく攻撃保護	○ ※1	○	○	○	○
リアルタイムファイルシステム保護	○	○	○	○	○
機械学習保護	○ ※2	○	○	○	○
UEFIスキャナー	○	○	○	○	○
ESET LiveGrid	○	○	○	○	○
アイドル状態検査	○	○	○	○	○
OneDrive検査	○	○	○	○	○
Hyper-V検査	○	○	○	○	○
ホスト侵入防止システム(HIPS)	○	○	○	○	○
自己防衛機能	○	○	○	○	○
アドバンスドメモリスキャナー	○	○	○	○	○
エクスプロイトブロッカー	○	○	○	○	○
ランサムウェア保護	○	○	○	○	○

機能名	EFSW	ESSW			
	V7	V8	V9	V10	V11
ウイルス・スパイウェア対策機能					
電子メール保護	○	○	○	○	○
Webアクセス保護	○	○	○	○	○
暗号化通信の検査 (HTTPS・POPS・IMAPSの検査)	○	○	○	○	○
フィッシング対策機能	○	○	○	○	○
ネットワーク通信関連機能					
バルナラビリティシールド	○	○	○	○	○
ボットネット保護	○	○	○	○	○
ファイアウォール	×	×	×	×	○ ※3
アップデート・ミラーサーバー機能					
検出エンジンのアップデート	○	○	○	○	○
製品の自動アップデート	×	○ ※4	○	○	○
オフライン更新機能	○	○	○	○	○
検出エンジンのロールバック	○	○	○	○	○
ミラー機能	○	○	○	○	○

※1 AMSIによるスクリプト保護はWindows Server 2016の場合のみ利用可能です。
 ※2 EFSWのV7.2から搭載されております。
 ※3 Essentialライセンスの場合、ご利用いただけません。
 ※4 ESSWのV8ではPCU(プログラムコンポーネントアップデート)という名称です。

3. プログラム別の機能比較 (2/2)

機能名	EFSW	ESSW			
	V7	V8	V9	V10	V11
その他の機能					
設定のインポート・エクスポート	○	○	○	○	○
除外設定	○	○	○	○	○
自動除外設定	○	○	○	○	○
デバイスコントロール	○	○	○	○	○
デバイスコントロールグループルールの追加	○	○	○	○	○
タイムスロット	○	○	○	○	○
プロキシサーバの設定	○	○	○	○	○
Windowsクラスタ環境のサポート	○	○	○	○	○
電子メール通知機能	○	○	○	○	○
パスワードによる保護	○	○	○	○	○